毎日新聞 1992年（平成4年）11月1日（日曜日）

イラスト・三戸口 裕子

静かなブーム オルゴール

このところ、オルゴールは若い女性を中心に静かなブームになっている。心に響いてくるような澄んだ音色が、さまざまな音のあふれた生活の中で、ほっと安らぎを与えてくれるせいなのだろうか。

手回し型が火付け役

国内オルゴール生産の最大手メーカー「三協精機」によると、最近のオルゴールブームの先鞭は、数年前に出した手回しオルゴール。18弁の小さなシリンダーオルゴールで、ニューミュージックを中心に若者に人気のある曲のサビの部分が鳴らせる。値段も5000円から2千円だったため、爆発的な売れ行きとなった。

「従来はメーカー主導型でこちらの選んだ曲を入れていたのですが、曲目を若者にしたのがよかったのでしょう。オルゴールの音色は、どこか哀愁を帯びていて、日本人の感性にも合っているのでは？」と同社企画開発部の綿貫昭一さん。これがきっかけとなり、2500円から5000円を中心にした若者のオルゴール市場が広がった。2、3000円台が売り上げの4割を占めるという。

オルゴールは男性から女性へのプレゼントにもらうものと思っている女性が多いらしく、「買っていくのは圧倒的に男性が多いですね」と綿貫さん。値段も手ごろで、かわいらしく、音色もきれいなオルゴールは、夢もあり、プレゼントを探す男性にとって、まさに"救いの神"なのだ。

これからは、「映像など」を取り入れた、総合的にもおもしろいもの、物語のあるものなどが出てくるでしょう」とのこと。まだまだオルゴールから目が離せないようだ。

音色がウケ CDも好調

手回しオルゴールの人気をレコード会社も見逃さなかった。手回しだと、曲のさびの部分だけだが、CDなら、一曲分入れられる。

日本コロムビアでは、ストレスを感じる働く女性をターゲットに、企画、デザイン、録音、営業まで、全部女性でブームを作った。

オルゴールを[illegible]にサンプリング。[illegible]この手間のかかるものだそうだが、全音域をサンプリングが出来れば、あとは自由に曲を作っていける。

初めて発売したのは、一昨年の12月。[illegible]Dは2万枚売れれば大ヒットですが、これまでに20種出して、50万枚突破しています」と、学芸部の川上[illegible]さん。

レコード店だけでなく、ファンシーショップやギフトのオルゴール売り場などに置いたのも、売り上げ増加の要因になった。

川上さんは「いろいろな音楽がありすぎる中で、リラックス出来る音色がウケたのでは」と分析する。ブームも安定期に入っているため、これからは[illegible]たベースで新しいものを出していく方針で、ディズニーものや人気アニメのテーマ曲も発売中だが、きょう1日には、クリスマスソングが3枚発売される。

専門店も続々オープン

この人気を追い風に、全国の観光地にオルゴール専門店や博物館が次々に誕生している。専門店の第1号は3年前、北海道小樽にオープンした小樽オルゴール堂。明治初めの、もとは穀物取引所だった建物を再利用した約1200平方メートルの店内に、3000種、1万点のオルゴールがある。年間約100万人が訪れるという小樽の新名所で、今年10月末には2号館もできた。

ほかにも、広島や北海道などに計画中のものも多く、全国ではかなりの数になる。また、アンティークオルゴールを専門に集めた博物館も、今年4月には栃木県に那須オルゴール美術館がオープンした。那須は丘の上に建てられたドーム型で、内部は英国の貴族の館をイメージしている。開館半年で8万人もの入場者が訪れた。

アンティークの音色を聞こう

東京都文京区にある「オルゴールの小さな博物館」は、日本で最初のオルゴール博物館だ。館長の名村義人さん（55）は、今では珍しいポリフォンやステラというディスク付きオルゴール、天使の歌声のようだという貴重なアンティークオルゴールの収集を始めたそうだ。そのうちに、「名器の音色を多くの人に聞かせてほしい」という声が強くなったため、一般に開放した。

今ではコレクションも200点余り。月曜から土曜まで1日13回、代表的なオルゴールの演奏と解説が楽しめる。小さな木箱の中に12弁の櫛歯が入ったものやおよそ20台のオルゴールを展示しているほか、オリジナルオルゴール（6500円）に、ユニークでかわいい。

▽文京区目白台3の25の14。入館料800円。☎03・3941・0008（祝日は休み）

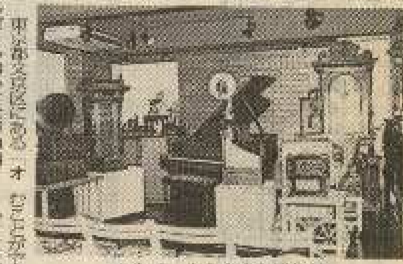
山梨県北巨摩郡にある清里の森の木の村博物館「ホール・オブ・ホールズ」は、8年前に開館した。木々に囲まれ、西ドイツの田舎の建物をイメージしたという白亜のおしゃれなホテルのような建物。

ここには、スイスやドイツ、アメリカなどから約250台のアンティークオルゴールが集められている。1時間に1回約30分ほどで、説明と演奏を聞きながらいくつかのオルゴールや自動演奏楽器の演奏を楽しめる。心が洗われるような音色に誘われて、童心に帰れる。

オルゴールをはじめ、世界のアンティークオルゴールの名曲を収めたオリジナルCDも数種販売している。

▽山梨県北巨摩郡高根町清里「清里の森」の木の村。入館料800円。10～18時。火曜休。☎0551・48・3535

オルゴール売場にCD。思わず手にとってしまう（小田急百貨店）


オルゴールの小さな博物館

ホール・オブ・ホールズ

専門店でお気に入りを探す パオ

東京・渋谷のキデイランドのパオ5階には、「ミュージックボックス」というオルゴールのコーナーがあり、大きなものから、ちょっとしたものまで品ぞろえは400近くも。

中でも見逃せないのが、アメリカ・エネスコ社のコーナー。レトロな雰囲気がいっぱいな作りで、ランプがついている。何か細いリーズ（2100円）、写真右上など凝ったものが（1万円＝写真◎上）で、ロボット（3600円）や2人乗りのパイク（3800円）＝同◎下＝などは、一見オルゴールには見えないものも。

音楽に合わせて、動物が[illegible]などの動物のシリーズ（2100円）＝同◎下＝や、写真立てに使えるプレーム（1800円）など、ちょっと値は張るが、ずっと大切にしたい素敵なオルゴールだ。

クリスマスシーズンに向け、11月3日まで、一階でもオルゴールフェスタが開かれ、ディオラマやクリスマスのシリーズなど、プレゼントにオルゴールを考えている人には、のぞいてみては？

How-To-おしゃれ

大きめニットが再び人気に

そろそろニットが気になる季節です。少し風のある日などは、カーディガンをはおって出かけないと肌寒いほど。ざっくりしたセーターも、もうすぐ恋しくなりそうです。

さて、この冬はその大きめニットが、再び脚光を浴びそうです。体にピタッとくるリブ編みのニットも流行中ですが、ざっくり大きめのセーターも負けてはいません。

太めの毛糸で、デザインはクルーネックやごくオーソドックスなカーディガンタイプ。サイズはたっぷりめで、色はシックなグレーや紺、緑や茶系など。

こんなセーターを、流行のロングタイトやジーンズ、またはショートパンツ＋タイツに合わせるのが今年風です。

セーターの素材の中で、今年、特に目立つのはモール素材。細かいケバがたくさん出ている糸のことで、これを使って編んだニットは、ちょっと光沢のある正面い質感が楽しめます。

色はシックなワイン色、くすんだブルー、グレーなどが人気です。大きめのえりぐりのオフタートルっぽいデザインやタートルネックなどに、黒のスパッツやショートパンツ＆タイツ……。こんなコーディネートが似合います。

ゆったりニットの命はボリューム感。全身のバランスをとるうえでのキーポイントでもあります。自分の身長やヘアスタイルの雰囲気に合わせて、一番似合う長さと色を見つけてください。

（川合 摺子）